

荒屋校下のまいぶんマニュアル



地形の説明

☆☆荒屋校下ってこんなところ！☆☆

地形／荒屋校下は梯川が流れる平野にあります。

ここには弥生時代以降、肥よくな水田地帯が広がり、人々が生活したむらや有力者の住まいのあとなどがたくさん見つかっています。

ぜひ授業で紹介してほしいポイント！

年表に登場する遺跡／^{たかんだう}高堂遺跡（高堂町）

おもな時代は平安時代。（遺跡の全体では弥生時代～室町時代までのものが見つかっています）。

教科書の小単元は「貴族のくらし」。

ポイント①＝古代能美郡の役所や寺など、公的な施設が建てられた場所。

ポイント②＝現在の国道8号線バイパス高堂インター付近を中心に、小松市と能美市にまたがる範囲に遺跡があります。

ポイント③＝「高堂」という地名のとおり、現地には四角く張り出したわずかな高まりがあります。

ポイント④＝発掘調査では、溝に区画された中に10棟以上の建物跡や、^{わどうかいちん}和同開珎などの^{こうちようせん}皇朝銭

（奈良・平安時代に日本に流通した公式な銅銭）が納められた穴が見つかりました。

また溝の中からは、^{もつかん}木簡や文字が墨書きされた土器もたくさん出土しています。木簡には、仏教の力で国をまもることを説いた經典名^{こんごうみょうさいしやうおうきやうしてんのうごくぼん}「金光明最勝王経四天王護国品」と書かれていました。これは、聖武天皇の時代に全国に設置された国分寺でも唱えられた大事な經典です。



荒屋校下の遺跡

インターの近くに看板があります！



遺跡の位置